

以下、本文-----

嚥下リハビリテーション介入による効果と嚥下内視鏡スコア改善に関わる因子の検討

1. 研究の対象

2018年4月～2022年3月の期間中、当院に入院して嚥下リハビリテーションを行った方を対象とします。

2. 研究目的・方法

嚥下（のみこみ）障害はさまざまな原因によって生じ、小児から高齢者まであらゆる年齢層に及びます。特に、高齢者においては脳梗塞や脳出血、神経や筋肉の障害による嚥下障害患者が増加しております。超高齢者社会を迎えた今日、嚥下障害は医療現場のみならず社会的にも大きな問題となっています。嚥下障害を患うと、口から食べ物が食べられなくなるばかりでなく、食べ物が空気の通り道である気管や肺に入ることによって引き起こされる誤嚥性肺炎の危機に直面することとなります。誤嚥性肺炎は、日本人の死亡原因の上位を占め、加齢とともに急速に増加するとされています。そのため、嚥下機能の低下により引き起こされる誤嚥性肺炎を食い止めるため、嚥下機能を良くするためのリハビリテーション（嚥下リハビリテーション）の重要性が唱えられています。

嚥下リハビリテーションは、飲み込みを実際に行う運動面や、むせ込む際などに関係する感覚面それぞれへのアプローチが重要とされ、その効果について数多く報告がなされています。これらの嚥下リハビリテーションを行う上で、患者さん個々の嚥下機能を適切に判断する必要があります。一般的に、嚥下機能の評価方法として内視鏡を鼻から通して飲み込みを直接評価する嚥下内視鏡検査（Video Endoscopy；VE）、実際に食べている食事のレベルを分類する摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2021、患者さんの飲み込みのレベルを簡便に評価する藤島摂食・嚥下能力グレード（藤島Gr.）がよく用いられています。その内VEは、嚥下機能を点数化（VEスコア）でき、嚥下機能を簡単かつ正確に評価することが可能で、嚥下リハビリテーションの効果を見る際に使用することができます。このVEスコアを用いて、嚥下リハビリテーションの効果について検討した過去の報告では、多くが嚥下リハビリテーションを行うことでVEスコアが改善するとされます。しかし、我々が実際に嚥下リハビリテーションを行う中で、VEスコアが改善せず悪化するケースに少なからず遭遇します。これは、病気の進行など嚥下障害の原因となる病気の影響や治療経過中に別の病気を発症してしまうことなどが原因として考えられますが、その詳細については明ら

かになっていません。嚥下機能と強く関係する VE スコアの改善・悪化に関する因子を明らかにすることで、より効果的な治療を行うことが可能となり、効率的に嚥下機能を改善することができるものと考えました。

そこで本研究では、当院へ入院し嚥下リハビリテーションを行なった患者さんを対象とし、①嚥下リハビリテーション介入による効果、②VE スコア改善に関わる因子について検討します。

***研究期間：倫理委員会承認日～2023年3月31日**

3. 研究に用いる試料・情報の種類

2018年4月から2022年3月までに当院に入院し嚥下リハビリテーションを受けた患者さんを対象として、電子カルテより基本属性（年齢、性別、原因疾患、認知機能の有無、Barthel Index、身長、体重、Body Mass Index）、VE スコア、藤島 Gr.、学会分類 2021、入院期間、嚥下リハビリテーション介入期間を取得します。取得した情報より、以下の方法で検討を行います。

検討①「嚥下リハビリテーション介入の効果検証」

対象：

2018年4月～2022年3月までの4年間に高知大学医学部附属病院へ入院した患者の中で、嚥下リハビリテーションを行なった患者さん全例を対象とします。

方法1：

患者さん全例を対象とし、嚥下リハビリテーション介入前後の「VE スコア」、「学会分類 2021」、「藤島グレード」の結果を比較します。また、「VE スコア」、「学会分類 2021」、「藤島グレード」について、嚥下リハビリテーション介入期間別に患者さんを分け検討を行います。

方法2：

患者さん全例を嚥下障害となった病気別に分け、嚥下リハビリテーション介入前後の「VE スコア」、「学会分類 2021」、「藤島グレード」の結果を比較します。

検討②「VE スコア改善に関わる要因の検討」

対象：

2018年4月～2022年3月までの4年間に高知大学医学部附属病院へ入院した患者の中で、嚥下リハビリテーションを行なった患者さんのうち、リハビリテーション介入前後に VE を施行している方を対象とします。

方法：

リハビリテーション介入前後の VE 合計スコアを比べ、2点以上改善したものを「改善群」、

2点以上スコアが悪化したものを「悪化群」として群分けします。電子カルテより取得したデータについて2群間で比較を行い、VE改善に及ぼす因子について検討を行います。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属・職名：高知大学医学部附属病院医療技術部リハビリテーション部門 言語聴覚士
氏名：矢野川大輝（研究責任者）
住所：高知県南国市岡豊町 185-1

-----以上